



1.ネクタイの結び目は印象をおおきく左右します。すこし凹みをつけて立体的にしあげるのがポイント。2.袖先からシャツが1-1.5センチ見えているのが正しいシャツの長さ。3.4.ペーペー系のスーツには茶系の靴・ネクタイ。色目を統一するだけでコーディネートの完成度が高まります。5.メラビアンの法則によれば「言語情報7%」「聴覚情報38%」「視覚情報55%」正しくつたえるためにはコトバだけでなく、併まいや身振り手振りなどのボディランゲージが重要

自分が何者なのか？ にようやく出会えるかも。

リーグはお金がもらえない。メジャーリーガーになるのが非現実的なもよくわかつています。でもこのチャンスに一旦封じ込めた想いがまたムクムクと湧きあがってきて自分を止められなくなりました。

やはり現実は厳しくなかなか結果も出ません、でも自分のこだわりにのめり込んでいるのはたのしくて気づいたら5年たっていました。若い選手が次々はいつくる、30歳前で力の衰えも感じ、蓄えもさうがに底を尽きました。野球だけしてきた30歳できることは特にない、冷静に考えてみるとヤバイぞと…アメリカでは野球さえしていればすべて忘れることができたのですが、野球をとると何者でもない自分に今さらながらに気づきました。そこでとにかくいろいろ経験しよう、フリーターとしてアルバイトを何個も掛けもちする生活が始まりました。このときに決めたのは「絶対NOと言わない」頼まれたことはすべて経験。とにかくなんでもやる、何者でもない私に依頼してもらったことはありがたいと思い、どんな細なことでも喜んで引き受けようときめました。

とにかく必死に働く日がつづきました。そんなときに子ども野球教室で教えてもらえないか？ という話を従兄弟からもらいました。休みなくずっと働いてるので野球教室についている時間はありません。でもNOと言わないと決めていたので即答で引き受けました。母が当時焼肉屋をしていたのですが、焼肉屋を手伝つてもらえないか？ と言つてきました。アルバイトかけもの上に野球教室にいついてさらに焼肉屋はさすがに無理かな… と思ったのですが、決めたことは守

り、朝から晩まで土日祝もなく働きづめの生

活確定、そんなハードな生活が1年以上つづきました。だんだんと流れが分かつてくると自分でやつてみたいと思つたのは、自分が必死で眼の前のことをしていて中でようやく自立をしかつていています。そこで思いきつて自分のお店を出すことにしました。数年間まったく休みなく働いてきたので蓄えはそれなりにあり、お肉を仕入れるルートもわかつたので、伊丹空港のちかくに5席と座敷のあるちいさなお店をだしました。アルバイトを何人か雇つたのですが、そのなかの1人が上沼恵美子さんの息子さんだったのです。面接時にはぜんぜんしらなかつたのですがあとから分かつて… 上沼さん御本人も来ててくれるしラジオやテレビでどんどん宣伝してくださいました。そのときには掛け持ちのアルバイトはすべて辞めていたのですが、従兄弟から頼まれた子ども野球教室だけは続けていました。本当に時間がなかなか大変だったのですが、そこから高校野球の臨時コーチとかも頼まれるようになりました。NOといわないと決めていたので休みもせんぶ削つて教えにいくつていると、それがご縁となり甲子園で負けた高校が伊丹空港から帰るまえに立ち寄る定番のお店として使われるお店となつたのです。またそこから野球関係の皆様に使つていただき機会もどんどん増え、そうしたことがいろいろと重なつて繁盛店となつていきました。

アホは天才と紙一重。 共通点は「素直さ」。

そんなとき、尼崎で福祉の会社をしている常連のお客さまから「福祉の仕事をやつてみないか？」と誘われました。焼肉屋のオーナーを福祉の仕事に誘うのもすごい話だなと私も最初は話半分に聞きながしていました。でもそのときに私には1つ不安があつた。